

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 22

千葉県立八千代東高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

志願する明確な理由と自らの将来への展望をもって真面目に学校生活に取り組む意志があり、次のアまたはイの要件に該当する基本的な生活習慣を身につけている生徒

ア 学業において、旺盛な知的な好奇心と探究心を持つ生徒

イ 中学校生活において、部活動、生徒会活動、ボランティア活動等に熱心に取り組み、入学後も継続することで自己の成長を図る向上心を持つ生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 実施形態：個人で発表 発表後、発表の内容について質疑応答を行う。 検査時間：5分（うち、発表時間1分30秒程度） イ 実技による自己表現 実施形態：個人で発表（ただし、団体種目は、複数人数で実施） 実技後、実技の内容について質疑応答を行う。 次の実技のうち1つを選択 野球（男）・サッカー（男）・剣道（男女）・ バレーボール（女）・バスケットボール（男女）・ ソフトボール（女）・吹奏楽（男女）・将棋（男女） 検査時間：20分程度（質疑応答の時間も含む）

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔310点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限40点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=2$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において20日以上、3か年の合計で30日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	生徒会活動、部活動、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については加点する。
オ 総合所見	総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査（自己表現）〔100点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。2名の評価者による、評価項目ごと評価の組合せ（a a～c c）で得点化する。評価cが2つ以上ある場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	積極性や意欲が適切に表現されている。 発表・質疑応答における態度が適切である。
(イ) テーマ・内容	発表内容がわかりやすく整理されており、まとまっている。 発表内容が自らの体験や考えに基づいた具体的なものであり、適切に表現できている。
(ウ) 表現力	表現力豊かに説得力をもって自分の考えを適切に表現できている。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・態度	当該種目に対する積極性や意欲が適切に表現されている。 発表・質疑応答における態度が適切である。
(イ) 基礎的技能	当該種目における基礎的技能を身につけており、適切に表現できている。
(ウ) 専門的技能	当該種目における専門的技能を身につけており、適切に表現できている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

<総得点の満点の内訳>

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点	総得点
	評定 (K=2)	加点	自己表現	
500 点	270 点	40 点	100 点	910 点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面接を行う。